

白川町総合計画審議会 会議録（第7回）

1. 開催日時 令和3年2月2日（火） 午後3時00分 開会
2. 開催場所 白川町町民会館 大研修室
3. 出席委員
会 長 竹内 治彦君 委 員 藤井 宏之君
委 員 佐伯 好典君 委 員 服部 圭子君
委 員 加藤 邦之君 委 員 田口 和義君
委 員 古田 文英君 委 員 山中 剛彦君
委 員 鈴木 雄二君 委 員 今井 和秀君
委 員 小栗 敏弘君 委 員 安江 万美子君
委 員 福田 喜美子君 委 員 細江 照男君
委 員 後藤 茂巳君 委 員 塩月 祥子君
4. 欠席委員
副 会 長 細江 茂樹君 委 員 瀬瀬 眞彦君
委 員 浅井 長可君 委 員 内藤 敬子君
5. 説明のために出席した者の職氏名
町 長 横家 敏昭君 副 町 長 佐伯 正貴君
教 育 長 鈴木 雅史君 企 画 課 長 長尾 弘巳君
町民課長 藤井 勝則君 保 健 福 祉 課 長 杉山 哉史君
農 林 課 長 三宅 正仁君 建 設 環 境 課 長 藤井 充宏君
教 育 課 長 藤井 寿弘君 議 会 事 務 局 長 大岩 裕樹君
会 計 管 理 者 加藤 博史君 林 業 専 門 監 梶浦 善孝君
6. 職務のために出席した者の職氏名
企 画 係 長 鈴木 幸祐 企 画 係 主 査 山下 直紀
企 画 係 主 査 山口 裕代
7. 会議の経過
企 画 課 長 開会する旨を宣告し、あいさつした。（午後3時00分）
会 長 あいさつした。
町 長 あいさつした。
【協議事項】
（1）総合計画基本構想・基本計画案について
会 長 （1）総合計画基本構想・基本計画案について事務局に説明を求めた。
山 口 主 査 資料により説明した。
会 長 質疑を許した。

佐伯委員 観光の振興ですが、まず体験型プログラムによる宿泊者数の仮定値というのが簡易宿泊所「とみだ」のみの670人ですけれども、町内にある他の宿泊施設の利用も見込んではどうかと思いました。また、観光客見入込数ですが、道の駅というのは観光客というより、通り過ぎる方が多い印象があります。クオーレの人数は当然入れてもいいと思いますが、道の駅の入ったお客さんを観光客として全員入れるのは、いかがかと思いました。

企画課長 まず、体験型プログラムの宿泊者数ですが、ここでは今年度から運用を始めました町の施設「とみだ」と新たに民泊創業するものを見込んで挙げております。既存の旅館を使うということも再度、検討させていただきたいと思います。

また、観光客の入込数ですが、クオーレふれあいの里、それから道の駅の観光客の数という形で拾っております。数の把握につきましては第三セクターを使って把握する形でないとなかなか数値がつかめないということで、2つの施設を選んでおります。

道の駅の人数は、全てを観光客というふうに見るのはどうかと思いましたが、売店のレジ通る方が対象になっていますので、少なからず観光客として該当すると思っております。

佐伯委員 ボルダリングなどは体験型プログラムに入っていませんが、観光の一つだと思います。始まって3カ月程ですが、間違いなく体験者は年間1,000人を超えてくると思います。この人数がカウントされないとすごくもったいないなと思っておりますので、その人たちが宿泊を伴って来町した折には宿泊先で何を目的にしたかというアンケートさえ取れば、観光という数値に反映できると思います。

また、白山神社や黒川の二ッ森山、隠居山観音など、観光という視点で、正確な数は出ないにしろ数を拾っていくことも必要かと思えます。数値目標に反映されるかは別として、そういった取り組みも、観光の振興という中には入れていくべきだと思います。

企画課長 ここでは、行政の取組む形の中で目標を定めておりますので「とみだ」それからグリーンツーリズムによって増えた民泊そういったものを拾うということで担当課としては考えました。その中でどういった体験をしたかというのも、アンケートを取って集計できると思います。

観光客の入込数は、白山神社とか隠居山観音なども加えてはというのもいい案ですが、やはり数値の把握は難しいのが現状です。ゴルフで来る方であったり参拝にみえる方であったりという数字は努力目標に掲げにくい

というのがありました。

引き続き白山神社や隠居山観音の他、自然あふれる町の財産及び観光施設の利活用に努め、観光振興を図っていきます。

後藤委員 数値目標が示しにくいというのはわかりますので、3セクでないにしても、どうやったら収入があげられるかとか、そういう道筋をしっかりとつけて、示していただければ、起業してみようとか、働いてみようという人も出てくるかと思います。

塩月委員 グリーンツーリズムによるプログラムの参加人数はある程度出していけると思っています。ボルダリングですとかシャワークライミングですとか地域の中で新しく体験として提供できるものが増えていますし、将来的には白山神社とか、隠居山観音も数の把握ができるようなことも視野に入れながら進めていくことも可能だと思いますので、グリーンツーリズム協議会をうまく使って、数の把握に繋げていければいいなと思います。

会長 観光統計というのは結構難しく、どう計上したかというものが多くて、これはすごく限定的に見られているので、今のご意見になるのかなとも思います。

行政の施策によって、達成される数そのものではなく、町の実力みたいなものを表現する物についてご検討くださいということになるかもしれません。

総合計画の議論よりは個別の計画であったり、そういうところでの議論の対象になってくると思いますので、総合計画としては町の施策そのものではなくて、もう少し広くとってはどうかというそういうご意見が多かったということで受けとめていただければと思います。

服部委員 新規就農者がありますが、もう一つ、林業に対する希望的な意味も含めて、林業従事者数も目標値として加えてもいいのではないかと思います。

次に、地域福祉の推進でボランティア活動をしている人の割合が書かれています。現状20%ということで、ここにはシルバー人材センターとか有償ボランティアなどは社会福祉協議会の把握等で反映されているのかということをおもいました。

次の子育てを楽しいと思う人の割合というところですが現状60%ということですが、これはもっと高く100%にしていくような政策があるのではないかなとおもいました。

また、幸せと感じている高齢者の割合というのも現状53%なので、こ

れも100%を目指すことが必要だと思いました。

それからSNSのフォロワー数いうところですが、2,700人が現状で毎年30人ずつというのは低すぎるのではないかと思います。

自然環境の保全ですが、ゴミの再生利用率というのが現状値32%利用されているということですが、目標値が下がっているのはどうかと思いました。

自治会加入率ですが86%っていう数字がどんな状態なのかっていうことをお聞きしたいです

最後ですが、移住定住の推進で、空き家の解消とか、移住者の人数は、ありますが、転入者数を目標にすることは考えているでしょうか。

農林課長 林業従事者の育成は必要な施策として本編に示していますが、数値目標としては設定していません。

保健福祉課長 ボランティア活動をしている人の割合は、まずシルバー人材センターや有償ボランティアこれはもちろん大事で今後も推進はしていきます。ただ、地域福祉計画の中で今後の目標としては、独居高齢者世帯が多くなり在宅で生活していくことが厳しくなる中で、地域の中での助け合いがますます必要になります。介護保険とか医療保険を使いながらですが、それだけでは不十分なので、地域の中で助け合っていくという目標を掲げております。アンケートの設問で答えは若干変わってくるかもしれませんが、そういう意味でボランティア活動をしている方の割合としました。25%が少ないというご意見ですが、担当課としてはこの目標とさせていただきます。

次に幸せと感じている高齢者の割合ということですが、100%を目標で、という話でしたけどもここに書いてありますようにこれは10点満点の8点以上の割合ということです。当然6点、7点という方もありますので、その方たちもおおむね満足はしておられると思いますが、8点以上ということで60%としました。

教育課長 子育てが楽しいと思う人の割合というところで70%としております。70%ならそれでいいというわけではないので数値は、検討をさせていただきます。

企画課長 SNSのフォロワー数についてです。現状、LINEそれからFacebook、Instagram、YouTubeが開設している情報ツールになります。現在合計で3,700名ほど登録していただいております、それぞれで30人ずつの増加を見込み年間120人という目標を掲げ、8年間で5,800人ということにしております。担当課としては妥当な目標

と考え掲げたところです。

次に自治会加入率ですが、現状86%ということで、コミュニティの維持ということを考えて現状維持またはそれ以上ということで数値を掲げております。

それから移住者の人数ですが、ここでは移住交流サポートセンターを通じた方の移住者を拾っており、通常の転入者数とは異なります。

建設環境課長 ゴミの再生利用率のところですか。これはゴミの総排出量に対して再生した割合になります。1人当たりのゴミの排出量というのは人口減少に逆らって年々増えております。

ゴミが増えている一方でリサイクル量はそこまで上がらないという現状で、どこの自治体でも同じような状況です。

28%という数字は岐阜県とか全国の状況をみまして、現状維持を目標としました。

服部委員 年々人口が少なくなるのにゴミが増えているというのは考え直さなくてはいけないと思った次第です。この点では再生利用率ですのでゴミの量を減らすというような目標の方が実態には合っているというような感想も持ちました。

自治会加入率ですが86%というのが少ない気がしたので、どういう方が入っていないのか教えていただきたいと思います。

保健福祉課長 私の方から自治会の加入率をわかる範囲でお答えしたいと思います。

白川町の世帯数の全体としては、特別養護老人ホームとか障害者福祉施設、あるいは老人アパートとかもそれぞれ一つの世帯に数えられておりますが自治会から全世帯に広報紙は配られていないので、そういった所は当然世帯数から抜かれます。また、単身でアパートなどに入っておられる方が加入していないケースも多いと聞いております。

そういうのを含めて86%ということです。傾向として、自治会の付き合いを煩わしいあるいはそういった付き合いはしないというような方が増えないように現状維持を目標としています。

会長 転入者というのは、それを把握しようと思えば住民票の登録ですから完全にできるわけですが、それは意味がない数字であると思います。だから多くの自治体は何らかの転入支援策を通じた転入者を移住者というふうに定義して、その数をカウントしています。一般的な転入者を数えていっても、世の中の経済活動で転勤する人も全部がそれに入ってきますから、あまり白川町の力を保っていくってことを見ていく数字にはならないと思うので、サポートセンターを通じた数というように定義していくのは1

つの考え方だろうと思います。

SNSは8年もたてば、はたしてFacebookはあるのだろうかという話だと思うので、何を基準にどうとっていいのではないかと思います。

自治会加入率は行政の目標として挙げるのかどうか微妙なところですが、現状維持ぐらいであげてくのはいいのかなという話であって、これを高めていくというのは都市部の自治体で言ったらちょっとありえない話になってくるところかなと思います。

ゴミについては悪くなった数字を掲げることは考えにくく、傾向として悪くなっていく場合は現状維持が目標だと思います。

建設環境課長 先ほどの服部委員さんの方から再生利用率よりも総排出量の方がいいのではないかというご意見いただきました。

実は最初は担当課としては排出量にしておいて、啓発をどんどんすることで量を減らすという成果指標としていましたが、検討した中でゴミを出さない啓発をする事で、不法投棄や野焼きが増えてしまうと、そもそもの施策で目指しているところが、自然環境の保全というところなので、総排出量よりももっと別の指標にした方が良いのではという話がありまして、それで再生利用率を上げていこうという成果指標に変えたわけです。目標は現状維持に変更したいと思います。

後藤委員 数値化できるかどうかわかりませんが、情報基盤の部分で発信に加えて、情報の収集という部分でいわゆる機会損失をしている可能性があるのではないかと思います。情報発信は当たり前に行うと思いますが、収集という部分で数値化できるかわかりませんが重要だと思いますので発言させていただきました。

企画課長 情報収集に努め、情報発信は一元化したものに変えていくといったことに取り組んでいきたいと思います。

(2) 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について

会長 (2) 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について事務局に説明を求めた。

企画係長 資料により説明した。

会長 質疑を許した。

佐伯委員 白川であんきに子育て・あんきに暮らすの子育て世代の満足度というのが、1期は満足度で、2期は支援センターの利用者数となっていますが、利用者数よりも、利用してどうなったかっていうことを重視する方が結果に結びつきやすいと思います。

満足度は良かった、悪かったで反省ができるので、満足度に関しては引き継いだ方がいいのではないのかなと思います。

企画係長 第1期の戦略の検証が5年間に一度しか出ない数字やアンケートによる数値の設定が多かったので、毎年見直すときに変化が読み取れないということがありました。第2期のK P Iは基本的に毎年見直しや把握ができる数字の中で設定をさせていただきました。目的の部分は総合戦略の具体的にどんな取り組みをするかというところで補足ができないかなということを考えております。

会長 ニーズっていうのも重要だと思いますが、満足度も人数と同時に調べておくとうごくいいと思います。満足度は5年に1度のアンケートなどで検証されるかと思います。

【その他】

会長 その他について説明や意見がないか求めた。

山下主査 今後について資料により説明した。

企画課長 補足説明した。

会長 パブリックコメントの結果により、大きな修正を求められた場合は改めて一度審議会を開く必要がありますが、軽微な修正に関しては会長に一任いただくということでどうでしょうか。

(意見なし多数)

【答 申】

白川町第6次総合計画の策定について、会長から町長に答申した。

(会長が町長に対し答申文を読み上げ、手渡した)

町長 答申に対し委員への御礼の挨拶をした。

藤井委員 閉会にあたりあいさつした。

会長 閉会を宣した。

(午後4時30分)